

2024 年 3 月 22 日
公益社団法人 日本軽種馬協会

特 別 寄 稿

カラヴァッジオ(USA)の本邦初年度産駒第1号が誕生

(山田 康文)

日本軽種馬協会静内種馬場に繋養されているカラヴァッジオの本邦初年度産駒第1号が、新ひだか町静内の静内山田牧場で産声を上げた。



母スマートアクシス（父ルッキンアットラッキーLookin At Lucky (USA)）にとって第3仔となるこの馬は2月9日生まれの子馬。大叔父に2015年のサンタアニタダービー2着で種牡馬となったワンラッキーデイン One Lucky Dane (USA)（父ルッキンアットラッキー）がいて、祖母ムーア Moored (USA) は、2011年フィリーズレビュー3着馬でJRA5勝エーションハーバー (USA) の半妹というファミリーだ。

同牧場の山田大貴さんは、「カラヴァッジオは、海外の競馬にも精通しているオーナーのマネージャーが高く評価していた1頭です。予定日から3週間ほど遅れてヤキモキしましたが、無事に生まれてほっとしています。出産の介助をするときにつかんだ脚の感触が素晴ら

しかった。期待の血統馬ですから、その期待どおりの活躍をしたうえで繁殖牝馬として戻ってくれたら生産者冥利に尽きます」と白い歯を見せ、今年は自己所有の繁殖牝馬の中でも期待の大きな馬に配合しようと思っています」と目を輝かせた。初仔誕生のニュースに駆けつけた JBBA 静内種馬場の遊佐場長も「お父さんと似た感じでバランスのよい馬だと思います。馬体からは、短い距離で走りそうなイメージがありますね」と目を細めていた。



供用2年目の父カラヴァッジオ（10歳）

カラヴァッジオは、現役時代には愛国のA・オブライエン調教師の管理下におかれ、欧州のトップスプリンターとして活躍。2歳4月にデビューすると、ダッシュ力と粘り強さを武器に2つのGI競走含んだ6連勝。その合計着差は6戦すべて6ハロン以下であるにも関わらず15馬身近くにもなっている。

通算成績は10戦7勝（重賞5勝）。引退後は2018年からクールモアスタッドで種牡馬となり、その初年度産駒からチヴァリーパークS（英GI、芝6ハロン）勝ち馬のテネブリズム Tenebrism（USA）、独2000ギニー（独GII、芝1600m）優勝馬マルジューム Maljoom（IRE）ほか、日本の阪急杯を勝ったアグリなどを輩出。2021年の全欧新種牡馬チャンピオンにもなり、3世代目産駒のポルタフォルチュナ Porta Fortuna（IRE）はチヴァリーパーク

Sを快勝。またホワイトビーム Whitebeam (GB) がダイアナ S (米G I、芝9ハロン) に優勝するなど、早くも英愛仏米豪日で10頭の重賞勝馬を送り出している。

カラヴァッジオの父はサイアーオブサイアーズのスキヤットダディ Scat Daddy (USA)。米国三冠馬ジャスティファイ Justify (USA)、欧州の名種牡馬ノーネイネヴァー No Nay Never (USA) などを通してその血を世界に広めており、日本でも高松宮記念優勝ミスターメロディ (USA) が人気種牡馬となっている。祖父ヨハネスブルグ (USA) は全欧&米国2歳チャンピオンで、かつ本邦新種牡馬ランキング1位。仕上がりが早くてスピード、成長力があり、血統からは高いダート適性も期待できる。

昨年とはくにシーズン前半の受胎率が低く受精能力を心配されたものの、シーズン後半は大幅に改善。また、精液検査や生殖機能検査においても異常はまったく認められなかったことを付記しておきたい。